

人は夢に向かってがんばることで、 大きく成長できるのだ！

2年女子中長パートのKが、JR茨木駅近くの藤本整骨院に通っている。その整骨院で「北口先生に陸上を教えてもらったという高校生がいます。」と彼女が言うので、よく聞いてみると茨木西でキャプテンをやっていたGくんのことであった。Gは現在、大阪高校の陸上部3年生で400mを専門にがんばっている選手である。大阪高校のマイル（4×400mR）メンバーとして、全国インターハイに出場することが彼の目標である。久しぶりにGの名前を聞いて、今でも鮮明に覚えているできごとがひとつある。

Gは陸上部のキャプテンとして、自分にもまわりにも妥協を許さない信念の男であった。部員のいいかげんな行為を見ると、憎まれ役を買ってでも苦言を呈する。自分の練習にも妥協しない。同じ本数を走るにしても、明らかに他の選手とは追い込み方が違う。自分を追い込みすぎてグラウンドにゲロを吐いてしまったことがたびたびあった。2年生の夏までは、いつも大阪では準決勝落ちをくり返していた。ひと目のつかないところで肩を振るわせて泣いていたこともある。そんな彼だから、いつも練習をし過ぎては故障し、治ったと思ったらまた追い込みすぎて故障する…そんな繰り返しであった。先生はそんながんこな昔気質（むかしかたぎ）の彼を、「平成生まれの明治男」と呼んでいたくらいである。実は彼はクラスでも人気者で、確か沖縄での修学旅行の学年レクでクラススタントの主演になっていた。クラスのこと、勉強のこと、もちろん陸上のことにも妥協しない。そんな彼が、あまりにも疲労をためすぎてしまったのかもしれない。こともあろうか、大事な大事な修学旅行前日の晩に熱を出してしまって、参加できなくなってしまったのだ。その連絡を聞いて、学年やクラスの生徒も先生もみんなが彼の修学旅行不参加を悲しんだ。

修学旅行が終わって、彼は何事もなかったように練習を再開した。正直な話、先生自身も何て声をかけたらいいのか迷っていたのだが、彼は平然としていたのだ。そのあと、彼の母親と会う機会があって、「修学旅行のことはとても残念でした。お母さんどうでしょう。この夏の全国大会に（付き添いになったとしても）彼を連れていってもいいでしょうか。」と言うと「そうしてやってください。ぜひお願いします。」と頭をさげてください。

夏。気温35度を記録する酷暑の中、大阪中学選手権が長居第二競技場で開幕した。彼の出場種目は200m。前の年の秋の大阪総体で2年200mで優勝したくらいの実力者ではあったが、故障もあり近畿大会出場をねらっているものの、その実現は微妙な

ものとなった。何とか決勝進出を決めスタート直前、第3コーナーを祈るような思いで見つめていた。彼の3年間のがんばりを知っているだけに、何とか結果を出させてやりたいと思う気持ちでいっぱいになった。向かい風も強く、好記録ものぞめない。彼は深呼吸をしたあと、集中したきびきびした動作でスタブロに足をセットした。やがて全員が静止して、ピストルの音が鳴って勢いよく飛び出したのだが、ピストルが立て続けに鳴る。何と写真判定用の電気計時の機器のトラブルが原因であった。スタートのやりなおし。「いったい、陸上の神様はどこまで彼に試練を与える気なんだろう」と思った。3分ほど、スタートを待たされることになったのだが、容赦なく照りつける太陽の陽射しのせいか、とても長く感じられる時間であった。

運命のピストルが鳴った。勢いよく曲走路で加速した彼は第4コーナーの出口にさしかかった。すでに前には2人の選手がいる。そのあとは横一線で、近畿大会出場の3位までに誰が入るのかわからない状況である。思わず、Gの名前を大声で叫んでしまった。フィニッシュライン手前で、彼がわずかに3番手に出た。

乾坤一擲(けんこんいってき)、倒れこむようにゴール。3着。近畿大会出場を決めた。その光景を見て、東雲中に転勤になったS先生が、「北口先生、(Gくんが近畿大会に行けて)よかったですね。」と、走りよって声をかけてくれたのですが、申し訳ないけど振り返って応えることができなかった。涙が出て止まらなかったのです。

腰ゼッケンをはずして、息もまだ整わない彼のところに歩み寄り、「近畿大会出場おめでとう。よくがんばったな。全国は無理だったけど、うちは女子のリレメンや男子3000mでも全国に行くので、どや、勉強するつもりでいっしょに全国に行かへんか。実はもうお母さんにも了解をとってあるんやけど…。」と、声をかけた。彼ははずむ息を整えた後、一度目を伏せて、そのあと顔をあげてから言った。「ありがとうございます。そういうふうに言ってもらえるのは、嬉しいんですけど…。実は、僕は高校でも陸上競技を続けたいと思っています。全国には自分の力でいきたいと思っています。」彼の顔から大粒の汗が落ちた。汗びっしょりの顔。その中で瞳だけがきらきらと輝いていた。

彼はその言葉どおり、短距離では全国でも有名な大阪高校に進学した。大阪高校陸上部顧問のO先生が「先生の中学から来てくれた選手は、陸上だけでなくすべてのことでもがんばってくれています。学校の雰囲気の良い方向に変えてくれています。」というお褒めの言葉をいただいたこともある。そして、2007年6月。大阪インターハイ。彼は400mとマイルリレーで近畿インターハイ出場を決めた。夢の実現のためには、まだまだ試練や困難がいっぱいあることでしょう。でも、いつも真正面から夢に挑戦する彼の生き様を見て、「夢に向かってがんばることの大切さ」を改めて思い知らされた。

きっと、夢が輝けば人生も輝くものなんだと思う。